

西阿木名中学校の課題解決学習の取組

1 学校名

天城町立西阿木名中学校

2 学年・人数

全学年 13人

3 日時・場所

(1) 学習会の日時・場所

令和3年9月～11月 学習会：総合的な学習の時間

令和3年9月17日（金）フィールドワーク（下原洞穴遺跡）

令和3年11月2日（火）発表会リハーサル

(2) 発表の日時・場所

令和3年11月9日（火）課題解決学習発表会

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

下原洞穴遺跡（したばるどうけつせいせき）：貝塚時代前1期～前3期（縄文前期～中期）

(2) 特徴

下原洞穴遺跡が所在する天城町西阿木名には大きく2つの段丘が認められ、標高約150mの名集落が立地する段丘（糸木名層）と、その西側にある通称「シューバル（下原）」と呼ばれる一段低い段丘（亀津層）がある。この二つの段丘の境は約40～60mの高さの崖となり、この崖面が南北に屏風のように延びている。この崖面には、多くの洞穴が形成されており、下原洞穴遺跡もこの崖面に開口した洞穴に立地している。

5 保存会や地域との連携の具体

町役場の学芸員による解説

6 活用の取組の工夫した点

郷土教育を通して、郷土の人々の暮らしや自然、産業、芸能に理解を深めることによって、郷土愛を育て、文化の創造に尽くす心を育てる。郷土の素材や人材を活かした課題解決的・体験的な学習を通して、郷土への理解を深めるとともに、自己の生き方に活かそうとする態度を養う。郷土の自然や史跡、産業を探究することから、郷土のよさに気付き、郷土愛をもたせることをねらいとした学習を行う。郷土についての課題を設定し、収集した情報を整理・分析し、気付きや発見から自分の考えをまとめ表現する探究プロセスは、物事の本質を探って見極めようとする経験となり、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながる。

7 取組の様子（研究発表，創作劇等）



生徒の発表の様子



学芸員による解説



下原洞穴遺跡での説明

8 参加生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 成果

- 発表において大切なポイントを全職員で共通理解し、思考したことをアウトプットすることで児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成につながった。
- 郷土教育を通して、地域の歴史や文化に対する生徒の理解を深めることができた。また、地域の人材を活用し郷土教育を行うことで地域との連携を深めることができた。

(2) 課題

- 郷土教育を通して郷土の貴重な資源をどのように学習に関連づけるか今後更に研究していく必要がある。

【生徒感想】

- 史跡のことをより深く調べることができ、私たちの住む西阿木名のことを知ることで、将来自分たちの子供に教えるきっかけになった。
- これからも史跡のことを調べたいという気持ちになった。全国の史跡と西阿木名の史跡を比べてみたいと思った。